



# 桐生ロータリークラブ週報

国際ロータリー第2840地区 2016-2017年度 国際ロータリーのテーマ

## 2017年



### 人類に 奉仕する ロータリー

Rotary Serving Humanity

R.I 会長 ジョン F. ジャーム

善意というものがないなら  
ロータリークラブは唯の社交クラブだ。  
職業は金儲けのためでしかなく、  
社会奉仕というも施しにすぎず、  
国際奉仕は外交以外の何ものでもない。

パストガバナー 前原 勝樹

会長 吉田 栄佐 幹事 柳 明彦

クラブ会報・情報委員会 平岩千鶴子・岡部信一郎・日野昇・桑原志郎

02月20日号

### 第3015回例会

(02月13日(月) 第2例会)



- |                     |  |
|---------------------|--|
| 1. 点 鐘              | 8. 委員会報告   |
| 2. ロータリーソング斉唱 我等の生業 | 9. 卓話<br>「酉年にちなんで鳥のお話<br>それも猛禽類について」<br>鷹匠 彦部 和夫 様 |
| 3. 来訪者紹介            |  |
| 4. 新会員入会式           |  |
| 5. 出席100%表彰         |  |
| 6. 会長の時間            |  |
| 7. 幹事報告             | 10. 点 鐘  |

#### \*\* 来訪者紹介 \*\*

鷹匠 彦部 和夫 様

#### \*\* 新会員 入会式 \*\*

新会員 桐生瓦斯株式会社  
代表取締役社長 塚越 隆史 君



(1) 推薦の言葉 堀 明 君



#### (2) バッチの贈呈



#### (3) 歓迎の言葉



#### (4) 新会員挨拶



## \*\* 出席 100%表彰\*\*



水越稔幸 君

牛腸章 君

## \*\* 会長の時間 \*\*

### 【 報 告 】

- ・ 2/6(月) 会員組織強化室家庭集会 ならびに  
新会員オリエンテーション  
茶古里にて 9名出席
- ・ 2/11(土) RID2840 ローターアクト地区年次大会  
桐生プリオパレスにて 28名出席

### 【 予 定 】

- ・ 本日例会終了後 第3回クラブ協議会  
桐生倶楽部1号室にて
- ・ 2/18(土) S.A.A.家庭集会  
午後6時 30 分～ 大龍にて

## \*\* 幹事報告 \*\*

- ・ 株式会社マヒラより「抜粋のつづり」をご寄贈いただきましたので、本日配布のロータリーの友に挟んであります。
- ・ 桐生西、桐生中央、桐生赤城の各 RC より週報到着。

## \*\* 委員会報告 \*\*

### □ 出席委員会

本日の出席(平成 29 年 02 月 13 日)

総員 68 名 : 出席 41 名

平成 29 年 01 月 30 日例会 修正出席率:70.31%

### □ ニコニコボックス

- ・ 塚越隆史さん、ご入会おめでとうございます。😊
- 吉田栄佐 君、堀明 君、朝倉剛太郎 君、  
牛腸章 君、前原勝 君、岸田信克 君、  
津久井真澄 君、大友一之 君、飯塚壮一 君、  
松田秀夫 君
- ・ 入会させていただきました、誠にありがとうございます。  
塚越隆史 君
- ・ ローターアクト地区大会では、桑原さん、朝倉さんは  
じめ関係者の方に大変お世話になりました。

吉田栄佐会長、柳明彦幹事

- ・ 結婚祝をいただきました。 松田秀夫 君
- ・ 誕生祝をいただきました。 阿部篤朗 君
- ・ 出席100%表彰 牛腸章 君、水越稔幸 君
- ・ 写真をいただきました。 森末廣 君

## \*\* 卓 話 \*\*

「酉年にちなんで鳥のお話

それも猛禽類について」

地元で活動する現代の鷹匠として

上州猛禽会・鷹匠 彦部 和夫 様



酉年ということで、お声かけいただき、ありがとうございます。

今日は、トリは鳥でも猛禽類の話をしていただきます。

私は広沢町に生まれ、広沢幼稚園、同小学校、同中学校、桐生高校の後、県外の大学にいき、卒業後に桐生に戻り、現在は前橋市にある知的障害児入所施設で指導員をしています。そして趣味として5羽の猛禽類を飼育、調教し、福祉や教育の場所を中心にバードショーのボランティアをしています。



物心ついた時には私の愛読書は動物図鑑でした。今のように動物百科が普通に書店においていない時代ですが、父が理科の教員と言うこともあり、カラー写真満載のいい図鑑が家にありました。字が読めるようになるとそれを読みあさり、大きさ、特性、何を食べるかなど知り、ど

うやったら飼えるかといつも妄想していました。

その妄想は大人になるまで続きますが、妄想だけで高校生の一時的他は結婚するまで何も飼うことはありませんでした。高校生の時、市内のペットショップでサソリを見つけて「売ってる!飼えるんだ!」と興奮したのを覚えています。毒性が弱い、ハサミが立派でかっこいいサソリでした。当時2,800円のそのサソリが欲しくて、部活が終わると毎日ペットショップに見に行き、2週間ほど悩んで、ついに買ってしまい、母に叱られた思い出もあります。当時はネットの情報もなく、サソリなどというマニアックなペットの飼育方法なんて売ってるペットショップでもまともに知らずに売っている時代ですのですぐに死なせてしまい可愛そうなことをしました。



なかなか鳥の話にならずにすいません。実は私にとってタカやフクロウは大好きなペットの1つのジャンルに過ぎません。今は鳥が多く、バードショーなどもしているので

「鳥が好きなのですね?」とよく聞かれますが、その時は「動物はなんでも好きです。猫が一番好きだけど、今は飼えないでいます。」とよく答えていました。

ここで今同居しているペットの紹介をしたいと思います。ハリスホーク、ヒメコンドル、ユーラシアワシミミズク、メンフクロウ、アフリカオオコノハズク等の猛禽類の他、アフリカムナジロカラス、エボシカメレオン、ソメワケササクレヤモリ、ベルツノガエル、アカメアマガエル、アマゾンミルキーフロッグ、そして2

ヶ月前に念願の猫を飼いました。

タカやフクロウなどの猛禽類は、小学校の教書で鷹匠の話があり、その時からの憧れでした。猛禽類の魅力はビジュアル的なカッコよさ、美しさ、かわいらしさだと思います。そして、調教すればタカやフクロウがどこでも呼べば飛んでくる、そんな映画やアニメの中だけの世界と思うようなことが現実にできるのですから楽しくて仕方ありません。

猛禽類をはじめ、は虫類、フェレット、ハリネズミ、モモンガなどのエキゾチックアニマルといわれる特殊な動物が飼えるようになったのは、ここ20年くらいだと思います。特に猛禽の調教となる鷹匠の技術は門外不出的になかなか教えてもらえるものでありませんでしたので猛禽飼育は最近までごく一部の人の趣味でした。しかし、鷹狩りというものをオープンに楽しめるように猛禽類の輸入と販売とともに鷹狩りのノウハウを教えてくれる店ができて、そこから徐々に猛禽類をペットとして飼うことが広がり、ここ数年のフクロウカフェのブームでそれが一気に拡大しました。

猛禽類を飼う上でのハードルの1つとしてエサがあると思います。タカやフクロウのエサはネズミ、ヒヨコ、ウズラ等です。猛禽類の他、は虫類のエサとなるネズミ、ヒヨコ、コオロギ等を通販などで提供する会社ができたこともエキゾチックアニマルが広まった理由の1つだと思います。

バードショーをしていて、子ども達にも「エサはヒヨコだよ」と説明すると、みんな「えー」と言うので、いつもすかさず「鶏の唐揚げ好きな人?」と質問すると、多くの子ども達が「はい」と手を挙げます。そして「みんなもタカやフクロウと好きな食べ物が一緒だね」と説明するのです。最近TVで築地の敷地内にある石碑に「供養は完食」と書かれていることを知り、タカやフクロウは野菜は食べずに肉しか食べないけど、選り好みせずにヒヨコ丸ごとすべて食べ、それがタカやフクロウの体を作っている

ことを話し、食物連鎖や食べ残ししないことなどちょっと食育のような話しもしています。

バードショーをするようになったきっかけは、調教したタカやフクロウのフライトをみんなに見てもらいたかったです。調教して飛ばして自己満足していましたが、せつかくなのでみんなに見てもらいたい、自慢したい、そんな感じでした。



調教というと上から目線の言葉に聞こえますが、僕の中では意味のある言葉として使っています。フリーフライトのためのトレーニングをするわけですが昔ながらの鷹匠の技術とワザを使い調教します。

ドッグトレーニングでは犬は飼い主と同等の意識だと思いますが、鷹匠の文化では、鷹は鷹匠よりも地位が上であり、鷹を据えることを「鷹に乗っていただく」という意識で行います。調教は「調べて、教えてもらう」と書きます。調べるのは鷹匠、教えてもらうのも鷹匠です。鷹匠の言葉に、「鷹を見て鷹を知れ」というものがあります。鷹をよく観察し、鷹の状態を知る。エサへの執着、糞の色、飛ぶための胸の筋肉の状態、羽の状態などから、今日のコンディションを知る。そして、顔つき、目つき、翼のたたみ具合、落ち着きなどの鳥からの発信をキャッチし、今日のコンディションを鳥から教えてもらうのです。その気持ちが薄れ、鷹匠（飼い主）が天狗になってしまうと、途端にタカは言うことをきかずになかなか戻ってこなかったりするものです。それはタカだけでなくフクロウも同じです。私もその繰り返しで15年間猛禽を調教してきましたが、まだまだ満足いく調教はできていません。きっと一生かかるこ

ともかもしれないし、反面一生楽しみ続けられるのも猛禽の調教なのかもしれません。

「鷹匠」という言葉を使いましたが、タカを使い鳥や獣などを狩り、生活の糧にする人を鷹匠と言っていました。しかし、現代の鷹匠は猛禽類を使い趣味で狩りをするほか、害鳥駆除、自然保護、バードショーなどを行っています。そういう意味ではまだまだ若輩ですが私も鷹匠の端くれなのかな、と思っています。

また、最近のフクロウカフェのブームでは、正直知識も経験もない人間が「商売」としてやっているカフェもあり、そこではフクロウたちが可愛そうな状態で飼育されていることもあり、一部では問題視されており、そんなカフェを見ると悲しくなります。



今まで猛禽類の魅力を知ってもらおうとバードショーをしてきましたが、これからは猛禽類の特性と共に飼育の正しい知識も知ってもらえるようにボランティアでのバードショーを続けていきたいと思っています。

**\*\* 点 鐘 \*\***

#### □ SAA 今日の食事とお花 / ご連絡



ソイストーリーさんのお豆腐弁当